



2021 No.1

目次

第31回日本消化器癌発生学会総会を終えて	1
第32回日本消化器癌発生学会総会／第10回国際消化器癌発生会議について	2
第33回日本消化器癌発生学会総会の準備状況	7
日本消化器癌発生学会 理事長直轄プロジェクト特別推進研究 「腫瘍微小環境に着目した癌進展メカニズム研究の新展開」の研究発表会について ...	8

第31回日本消化器癌発生学会総会を終えて



第31回日本消化器癌発生学会総会 **大平雅一**
(大阪市立大学大学院 消化器外科 乳腺・内分泌外科)

2020年11月27日、第31回日本消化器癌発生学会総会を開催させていただきました。当初、大阪国際会議場を会場として2020年11月26日(木)、27日(金)の2日間、通常通りの形式による開催の予定で鋭意準備を進めてまいりました。しかし、皆様ご存じのように新型コロナウイルス(COVID 19)感染症の拡大と蔓延化により、何よりもご参加いただく会員の皆様の健康を第一に考え、島田理事長ともご相談のうえ、現地での通常開催は断念し、完全WEB下での開催とさせていただきました。本学会のために貴重な演題をご応募いただきました先生方、本会の開催にご協力いただきました各企業の皆様には大変ご迷惑をおかけすることとなりました。本誌面をお借りして心よりお詫び申し上げます。

本学会は皆様ご存じの通り、基礎から臨床にいたるすべての専門領域の先生方が一堂に集い、基礎的研究をはじめ、新たな診断法や治療に結びつく知見に富んだ研究発表を通して活発な討論が行われる、大変



先駆的な役割をもった学会であります。今回も、「癌組織の細胞社会を解き明かす」をメインテーマとして、最近注目を浴びておりますがん微小環境に関して、基礎から臨床へと多数の幅広い研究発表をして頂く予定としておりましたが、このような状況のため、皆様のご期待に添える形での開催ができなくなり、大変残念であります。

27日当日はライブで特別講演を2題、大原毅賞、田原栄一賞の受賞講演、シンポジウム2題、ワークショップ2題、共催セミナー8題と会長講演を配信させていただきました。特別講演では京都大学の小川誠司先生に「がんの起源について」という、本学会にふさわしい、また大変興味深いご講演をしていただきました。また韓国のHoon Hur先生には本総会のテーマにぴったりの「Role of Tumor Microenvironment on Gastric Cancer Progression」という演題で、胃癌進展における微小環境についてお話をさせていただきました。また、臨床研究部門での優れた研究者に贈られる大原毅賞は、九州大学消化器・総合外科の伊藤心二先生に、基礎研究部門での田原栄一賞は、熊本大学消化器外科の石本崇胤先生がそれぞれ受賞されましたが、その素晴らしい研究成果のご発表も拝聴することができました。また本学会で初めてのWEB形式による発表となったわけですが、この形式ではシンポジウムをはじめ、質疑応答や討論が行いにくいといわれており心配しておりましたが、ご司会の先生方の素晴らしいご采配もあり、けっこう盛り上がった議論が行われていたのではないかと考えております。また、これはWEB開催のメリットでもあります。当日視聴できなかった主題や演題につきましても、オンデマンドにて2020年12月31日まで配信しておりましたので、皆様各々の時間割に従って、自由にご参加いただけたのではないかと思います。

このような初めての形式での学会開催で、主催者としても手探り状態での、また1日だけの開催となりましたが、おかげ様で110題を超える演題ご応募と、170名を超えるご参加をいただくことができました。本当にありがとうございました。次回、2021年の第32回の学会総会は、岐阜大学消化器外科学・小児外科学教授、岐阜大学医学部附属病院長の吉田和弘先生が会長を務められ、2021年11月26、27日の2日間岐阜市の長良川国際会議場を中心に開催される予定であります。やはり学会会場に人が少ないのは極めて寂しい限りです。次回はぜひ現地で皆様と直接お会いできる総会となりますよう祈念しております。(注：残念ながら本稿が発表される時期には2021年もWeb開催に決まっておりました)。

最後になりましたが、開催にあたりご支援を賜りました、本学会役員の先生方、細部までいろいろお手伝いいただきましたクバプロの学会事務局の皆様、そして何より本学会総会の準備にあたってくれました大阪市立大学消化器外科、乳腺・内分泌外科、癌分子病態制御学教室の皆様にご心より感謝を申し上げます。

第32回日本消化器癌発生学会総会／ 第10回国際消化器癌発生会議について

第32回日本消化器癌発生学会総会／第10回国際消化器癌発生会議(The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for Gastroenterological Carcinogenesis/The 10th International Conference of the International Society of Gastroenterological Carcinogenesis)は、吉田和弘大会長のもと下記の要項で開催されます。

テ ー マ：Innovation for Gastrointestinal Carcinogenesis

大 会 長：吉田和弘(岐阜大学大学院外科学講座 消化器外科・小児外科学(旧腫瘍外科)教授)

日 時：(ライブ配信) 2021年11月26日(金)～27日(土)

(オンデマンド配信) 2021年12月10日(金)正午～2022年1月13日(木)正午

開催形式：Web開催のみ

※Web配信およびライブでの質疑応答、オンデマンド配信で行います。



参加費：5,000円(通常は15,000円)

《ライブ配信：2021年11月26日(金)～27日(土)》

会長講演、International Education Session、特別講演、大原毅賞受賞講演、田原榮一賞講演、教育講演、シンポジウム、理事長直轄プロジェクト、研究奨励賞発表セッション、一般演題、ポスターセッション、共催セミナー

《オンデマンド配信：2021年12月10日(金)正午～2022年1月13日(木)正午》

同上

《優秀演題賞について》

各セッション発表の中から優秀演題賞を選考する予定です。

プログラム

会長講演

日時：11月27日(土) 10:40～11:00 / 第1会場

「Surgical Oncologist のめざすもの」

司会：島田光生 先生(徳島大学消化器・移植外科)

演者：吉田和弘 先生(岐阜大学大学院消化器外科(旧腫瘍外科))

International Education Lecture 1

日時：11月26日(金) 10:25～10:55 / 第1会場

「Recent advancement of cancer therapy」(仮)

司会：吉田和弘 先生(岐阜大学大学院消化器外科(旧腫瘍外科))

演者：Howard A. Burris 先生(Sarah Cannon, USA)

International Education Lecture 2

日時：11月26日(金) 16:10～16:40 / 第1会場

「Near Infrared Photoimmunotherapy of Cancer」

司会：森 正樹 先生(東海大学医学部)

演者：小林久隆 先生(米国国立がん研究所)

International Education Lecture 3

日時：11月27日(土) 13:50～14:20 / 第1会場

「Precision Oncology Applications in Gastric Cancer」

司会：吉田和弘 先生(岐阜大学大学院消化器外科(旧腫瘍外科))

演者：Patrick Tan 先生(Duke-NUS Medical School, Singapore)

International Education Lecture 4

日時：11月27日(土) 8:50～9:20 / 第2会場

「Recent Advances in Cancer Precision Medicine」

司会：吉田和弘 先生(岐阜大学大学院消化器外科(旧腫瘍外科))

演者：Raju Kucherlapati 先生(Harvard Medical School)

特別講演1

日時：11月26日(金) 13:10～14:00 / 第1会場

「がんの起源について/On the origin of cancer」(仮)

司会：安井 弥 先生(医療法人広島健康会)

演者：小川誠司 先生(京都大学大学院医学研究科・医学部腫瘍生物学(病理学第二講座))

特別講演2

日時：11月27日(土) 13:10～13:50 / 第1会場

「iPS細胞から作製したT細胞製剤ーがんおよびウイルス感染症への応用ー」

司会：落合淳志 先生(国立がん研究センター先端医療開発センター)

演者：河本 宏 先生(京都大学ウイルス・再生医科学研究所再生免疫学分野)

大原毅賞受賞講演

日時：11月26日(金) 11:05～11:30 / 第1会場

司会：田原榮一 先生(公益財団法人広島がんセミナー)

演者：杉町圭史 先生(九州がんセンター)

教育講演

日時：11月27日(土) 14:30～15:00 / 第1会場

「ゲノム医療と病理学の協働」

司会：大辻英吾 先生(京都府立医科大学消化器外科)

演者：藤井誠志 先生(横浜市立大学大学院医学研究科・医学部分子病理学)

シンポジウム1

日時：11月26日(金) 8:50～10:20 / 第1会場

「Innovation in Clinical Technology and Basic Science」

司会：菅井 有 先生(岩手医科大学病理診断学講座)

掛地吉弘 先生(神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野)

基調講演：

「大腸癌における宿主の遺伝子変異と腫瘍内細菌叢のプロファイリング」

若井俊文 先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器・一般外科学分野)

「生体内リプログラミング技術によるがん細胞の理解と制御」

山田泰広 先生(東京大学医科学研究所先進病態モデル研究分野)

演者：

「NPTXRを標的とした新規胃癌分子標的治療薬の開発」

神田光郎 先生(名古屋大学大学院消化器外科学)

「尿中循環腫瘍 DNA を用いた大腸癌KRAS 遺伝子解析の有用性」

太田 竜 先生(日本医科大学消化器外科)

「Exosomal DNA はLiquid Biopsy の有用な新規ツールである」

栗山 翔 先生(日本医科大学消化器外科)

「大腸癌に対するイリノテカンベースの全身化学療法における

CHFR 遺伝子DNAメチル化を用いた感受性予測」

杉本起一 先生(順天堂大学医学部下部消化管外科)

「KRAS 遺伝子変異型癌に対する新規治療法 MEK 阻害剤 + BCL-XL 阻害剤併用療法の開発」

小山 誠 先生(信州大学大学院外科学講座消化器・移植・小児外科学分野)

シンポジウム2

日時：11月26日(金) 10:25～11:50 / 第2会場

「Molecular Carcinogenesis and Precision Medicine」

司会：山下裕玄 先生(日本大学消化器外科)

牛島俊和 先生(国立がん研究センター研究所エピゲノム解析分野)

基調講演：

「マイクロRNAを用いた核酸医薬抗がん剤の開発」(仮)

田原栄俊 先生(広島大学大学院医系科学研究科)

「病理部門としてのがんゲノム診断への取り組み」

宮崎龍彦 先生(岐阜大学医学部附属病院病理部)

演者：

「colitic cancerにおけるMAdCAM-1と腫瘍微小環境の関係」

小澤直也 先生(群馬大学総合外科)

「大腸癌手術症例に対するがん遺伝子検査から見えるもの」

清島 亮 先生(慶應義塾大学医学部一般・消化器外科)

「肝芽腫CHIC分類とDNAメチル化解析の統合による新規リスク分類」

近藤享史 先生(北海道大学大学院医学研究院消化器外科学教室I)

「mTOR1の活性化は膵管内乳頭粘液性腫瘍の糖代謝と癌化に関わる」

平下禎二郎 先生(大分大学消化器・小児外科)

「Lysosome酵素に着目した膵臓癌のオートファジー調整機構の解明と新規治療法の検討」

羽村凌雅 先生(東京慈恵会医科大学外科学講座)

シンポジウム3

日時：11月27日(土) 8:50～10:20 / 第1会場

「Immuno-Oncology Update」

司会：野村幸世 先生(東京大学大学院医学系研究科消化管外科)

調 憲 先生(群馬大学総合外科学講座)

基調講演：

「免疫ゲノム解析に基づく新たながん免疫プレシジョン医療の展開」

西川博嘉 先生(名古屋大学大学院医学系研究科微生物・免疫学講座分子細胞免疫学)

「光免疫療法の今後の展望」

田原 信 先生(国立がん研究センター東病院頭頸部内科)

演者：

「マウスモデルにおける胃癌腹膜播種の免疫チェックポイント阻害剤治療」

杜 婉瑩 先生(東京大学大学院医学系研究科消化管外科)

「胃癌局所の免疫反応と全身指標NLRとの関係と予後への影響」

田中浩明 先生(大阪市立大学大学院消化器外科学)

「肝がんモデルマウスを用いたDGKを介する抗腫瘍免疫メカニズム」

志智俊介 先生(北海道大学医学研究院消化器外科学教室I)

「光線力学的療法による免疫原性細胞死誘導メカニズムの解明と癌免疫療法への応用」

佐々木慎子 先生(名古屋市立大学大学院医学研究科消化器・代謝内科学)

「食道癌 Tertiary lymphoid structure と腫瘍内免疫との関連」

國友知義 先生(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科消化器外科学)

シンポジウム4

日時：11月27日(土) 14:30～15:50 / 第2会場

「Basic Science and Translational Research」

司会：吉住朋晴 先生(九州大学消化器・総合外科)

鈴木 拓 先生(札幌医科大学医学部分子生物学講座)

基調講演：

「原発巣及び転移巣におけるがん微小環境」

末次 淳 先生(岐阜大学大学院医学系研究科消化器内科学)

「消化器癌におけるバイオマーカーの展望」

牧山明資 先生(岐阜大学医学部附属病院がんセンター)

演者：

「癌関連線維芽細胞がPD-1/PD-L1を制御し予後を不良にする」

河崎健人 先生(岡山大学大学院医歯薬総合研究科消化器外科学)

「消化管癌におけるMieap制御性ミトコンドリア品質管理の腫瘍抑制効果」

佐野仁哉 先生(岐阜大学大学院腫瘍制御学講座腫瘍外科学)

「Epstein-Barrウイルス胃癌におけるLMP2AおよびSTAT3リン酸化を介した

転写因子EHFおよびWntシグナルの活性化」

金田篤志 先生(千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学)

「血清中表皮型脂肪酸結合タンパク質(FABP5)は肝細胞癌における予後不良因子である」

大平将史 先生(北海道大学大学院医学研究院消化器外科学教室I)

「慢性鬱血は肝類洞内皮細胞の毛細血管化を介して肝癌進展を促進する」

河合裕成 先生(東京慈恵会医科大学外科学講座肝胆膵外科)

理事長直轄プロジェクト

日時：11月27日(土) 15:00～16:20 / 第1会場

「腫瘍微小環境に着目した癌進展メカニズム研究の新展開」

司会：黒川幸典 先生(大阪大学大学院消化器外科)

五井孝憲 先生(福井大学第一外科)

演者：

「胃癌患者由来腫瘍関連線維芽細胞は胃癌細胞のClaudin-2発現を亢進させて浸潤能を増強する」

龍崎貴寛 先生(千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学)

「5-FU耐性胃がんオルガノイドを用いたメタボローム解析」

坂本直也 先生(国立がん研究センター先端医療開発センター臨床腫瘍病理分野)

「癌関連線維芽細胞を標的とした腫瘍免疫微小環境リモデリングに関する研究」

秋山貴彦 先生(熊本大学大学院消化器外科学)

「胃癌、大腸癌におけるHER2遺伝子増幅と腫瘍局所免疫環境の検討」

宮下 優 先生(九州大学大学院消化器・総合外科)

「腫瘍関連マクロファージ由来のCCL1はCCR8に作用し、

Akt/PRAS40/mTORシグナルを介して食道扁平上皮癌の進展に寄与する」

藤川正隆 先生(神戸大学大学院医学研究科病理学講座病理学分野)

「肝細胞癌におけるソラフェニブ耐性獲得機序に関する検討」

山田眞一郎 先生(徳島大学消化器・移植外科)

研究奨励賞発表セッション

日時：11月26日(金) 15:10～16:10 / 第1会場

司会：副島雄二 先生(信州大学消化器・移植・小児外科)

竹内裕也 先生(浜松医科大学外科学第二講座)

演者：

「Nrf2を介した微小環境クロストークによる肝細胞癌薬剤耐性機序解明に関する研究」

高須千絵 先生(徳島大学外科学)

「遺伝子発現解析を用いた、肥満関連大腸がんの発癌における微小環境変化の解明」

松井信平 先生(慶應義塾大学外科学一般・消化器)

「細胞接着分子に注目した胃癌進展機序解明と革新的治療戦略の構築」

中澤信博 先生(群馬大学大学院医学系研究科総合外科学講座消化管外科学分野)

「癌性腹水中SASP-CAFsによる腹膜播種促進メカニズムの解明」

安田忠仁 先生(熊本大学国際先端医学研究機構 (IRCMS) 消化器がん生物学)

「細胞膜受容体GABRDを標的とした新規胃癌治療の開発」

澤木康一 先生(名古屋大学大学院医学系研究科消化器外科学)

「肝胆膵癌における直鎖状ユビキチン関連シグナルの機能解析と革新的治療開発を目指した基礎的研究」

星野弘毅 先生(群馬大学大学院総合外科学講座肝胆膵外科分野)

「膵臓癌肝転移巣の癌関連線維芽細胞の解析」

西村貞徳 先生(大阪市立大学大学院医学研究科消化器外科学)

「膵癌におけるライソゾーム機構の分子機序解明と革新的治療の開発」

羽村凌雅 先生(東京慈恵会医科大学外科学講座肝胆膵外科)

「肝細胞癌におけるWnt5aの発現の意義と

カテニン非依存性Wntシグナル経路を標的とした治療への応用」

脇坂和貴 先生(北海道大学大学院医学研究院消化器外科学教室 I)

「肝細胞癌における抗癌剤耐性に関するバイオマーカーの検討」

伊勢田憲史 先生(済生会福岡総合病院)

第33回日本消化器癌発生学会総会の準備状況



第33回日本消化器癌発生学会 会長 野村幸世
(東京大学大学院医学系研究科 消化管外科 准教授)

日本消化器癌発生学会の第33回総会を2022年11月11日(金)～12日(土)に一橋大学一橋講堂を会場として開催させていただきます。本学会は私が研修医となりました1989年に研究会としての第一回総会を当教室先々代教授の大原毅先生が当番世話人を務められ、開催されました。私も受付業務を手伝わせていただきました思い出がございます。その後、2004年には先代教授の上西紀夫先生が会長を務められた第3回の国際学会を今井浩三先生が会長を務められます第15回総会と合わせて札幌で開催されて以来、当教室では3度目の主催となります。私にとりましては、この学会とともに医師としてのキャリアを積み上げて参ったと言っても過言ではないほど大切な学会です。

さて、本総会は「クローナリティとダイバーシティ」というテーマで開催させていただくことといたしました。クローナリティは癌の特質として知られていることですが、私が初

めて研究を学んだ江角浩安先生から与えられました研究テーマでした。ダイバーシテイは私が一方で取り組んでおります男女共同参画を支える大切な考え方です。癌はクローナルな増殖をする一方、微小環境としましては、このダイバーシテイを巧みに利用し、その発生と進展に有利な環境を作り上げています。この癌の巧みさを学問の世界では模倣しつつも、癌は克服できる策を見出せることを祈りつつ掲げたテーマです。

今回は、コロナ明けといたしまして、会場にお集いいただき開催できたらいいと願っておりますが、諸処のご事情により上京が難しい参加者のためにハイブリッドも企画しております。コロナ禍で鍛えられましたウェブ形態を利用し、海外の先生にもご講演いただけるよう企画しております。ぜひ、多くの方にご参加いただき、皆で癌を克服できたらいいと思っております。よろしくお願いたします。

日本消化器癌発生学会特別研究推進 理事長直轄プロジェクト 「腫瘍微小環境に着目した癌進展メカニズム研究の新展開」の 研究発表会について

令和3年3月19日(金)に一般社団法人日本消化器癌発生学会 理事長直轄プロジェクト特別推進研究「腫瘍微小環境に着目した癌進展メカニズム研究の新展開」の研究発表会が、WEBカンファレンスで行われました。

理事長直轄プロジェクトの研究発表会の詳細についてはhttps://www.j-sgc.org/index.php?page=annai_rijichoをご覧ください。

プログラム

<開会の辞> 13:00 ~ 13:05

島田光生

日本消化器癌発生学会 理事長(徳島大学消化器・移植外科学 教授)

<理事長直轄プロジェクト発表> 13:05 ~ 15:05 (各発表12分・質疑応答8分)

司会：森根裕二

徳島大学消化器・移植外科学 准教授

「胃癌患者由来癌関連線維芽細胞は癌-間質相互作用を介して
胃癌細胞株の浸潤能を高める」

演者：龍崎貴寛 先生

千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学

「5-FU耐性胃癌オルガノイドを用いたメタボローム解析」

演者：坂本直也 先生

国立がんセンター先端医療開発センター臨床腫瘍病理分野

「癌微小環境における胃癌浸潤に関わる分子メカニズムの解明」

演者：秋山貴彦 先生

熊本大学大学院消化器外科学



「胃癌HER2増幅症例における腫瘍局所免疫環境の検討」

演者：宮下 優 先生

九州大学大学院消化器・総合外科



「CCL1 derived from tumor-associated macrophages contributes to esophageal squamous cell carcinoma progression via CCR8-mediated Akt/PRAS40/mTOR pathway」

演者：藤川正隆 先生

神戸大学大学院医学研究科病理学分野病理学講座



「肝細胞癌におけるソラフェニブ耐性獲得機序に関する検討」

演者：山田真一郎 先生

徳島大学消化器・移植外科



<閉会の辞> 15:05 ~ 15:10

島田 光生

日本消化器癌発生学会 理事長(徳島大学消化器・移植外科学 教授)



編集後記

徳島大学 消化器・移植外科 森根裕二

COVID-19感染拡大から、約1年半が経過しました。これまで、また現在もその対策にご尽力されている先生方には、感謝の念に堪えません。くれぐれもお体をご自愛下さい。また健康被害を受けられた先生方もおられると危惧いたしますが、一日もはやいご回復を祈念いたしております。

今年の第32回日本消化器癌発生学会総会は、岐阜大学大学院外科学講座消化器外科・小児外科学教授吉田和弘先生が会長を務められ、第10回国際消化器癌発生会議と合同開催となる記念すべき総会となります。本学会の起源と特徴は、細分化され過ぎた消化器癌を同一次元で論じ、より大きな見地から消化器癌として総括し一本の太い幹に戻ることで、臨床系(外科、内科)、病理、生化学などの各分野にわたる幅広い横断的な研究活動を行うこととなっております。対面で熱く、時にはマニアックな議論を交わすことが、本学会の伝統と考えますが、コロナ感染第5波の緊急事態宣言が解除されたものの、周囲への影響を考慮し、本総会もWeb開催となりました。前回に引き続きWeb開催となったことは、現地開催の準備にご苦労されてきた先生方や、今年こそは現地参加をとご期待されていた先生方を思うと残念ではありますが、ウィズコロナ時代における学会・研究会の新たな開催形式を何度も経験し、定着してきたことで、次第にWeb画面上の熱い議論も可能になっているのではと感じておりますので、本総会でもそのような伝統が復活することを期待してまいります。また本総会でも、International Education Sessionや特別講演をはじめとした様々なセッションを企画していただくとともに、前回に引き続き学会終了後のオンデマンド配信も予定していただいております。リアルタイムに議論に参加・聴講でき、総会終了後もじっくりと、何度でも学べることはWeb配信の強みであり、特に若い先生方には、これをチャンスととらえて、是非ともご参加いただき、本学会の伝統や魅力を感じるとともに、最先端の消化器癌研究を学ぶ機会につながればと思います。会員の先生方におかれましては、是非ともご所属施設の内科、外科、基礎系の若い先生方にもお声掛けの上、本総会にご参加いただければ幸いです。

最後に、個人的ではありますが、総会以外での先生方との交流もとても楽しみにしておりましたので、近い将来、皆様に直接お会いできることを楽しみにしております。今後も事務局として先生方と本学会・総会を盛り上げていけるよう、微力ながら尽力させていただきます。

発行 一般社団法人日本消化器癌発生学会事務局

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋3-11-15 6F

株式会社クバプロ内

TEL : 03-3238-1689 FAX : 03-3238-1837

発行日 2021年10月12日

発行者 一般社団法人日本消化器癌発生学会

編集 総務委員会